

学校開放講座



市内の学校と連携した特色ある講座を開催します。詳細は各校へ問い合わせください。 生涯学習課 Tel 71-2466

講座名・講師	日時・場所	費用・定員など	申し込み・問い合わせ
あづみのこども寄席 落語を学び、最終回に公演(口演)会を行います。11月のあづみのこども文化祭でも発表予定。 講師 小平伴紀さん	7月25日(火)・26日(水)、 8月1日(火)・2日(水) 18:00~19:30 ▷口演会 8月5日(土) 15:30~16:30(開場15:00) 場 堀金小学校視聴覚室	対小学4年生~19歳 費無料 定10人程度(先着順) 持上履き、筆記用具、飲み物	場 右記2次元コードから 場 堀金小学校 Tel72-2013
SDGsのゲームをしよう アイデアを出し合い、研修や学習を設定して手軽に遊べるゲーム作りをします。 講師 向角太さん	7月15日(土)13:00~15:00 9月10日(日)9:00~12:00 11月11日(土)14:00~16:00 12月16日(土)8:30~10:30 場 堀金中学校図書館	対小学5年生以上 費無料	場 7月1日(土)から各開催日の前々日17:00までに右記2次元コードから 場 堀金中学校 Tel72-2272
ボールパークであそぼう! ボールを投げたり捕ったり、打ったりして遊びます。 講師 松下聖軌さん	7月20日(木)、9月12日(火)、 10月17日(火)、11月9日(木) 17:00~18:30 場 明科高校グラウンド	費無料 定各回15人(先着順) 持飲み物	場 各実施日の1週間前までに右記2次元コードから 場 明科高校 Tel62-4388
初歩から学ぶ日商簿記3級取得を目指して 日商簿記3級の受験に必要な知識と技能を学びます。 講師 川上忠志さん	8月19日~10月7日 土曜日・全8回 9:00~12:00 場 穂高商業高校簿記室	対全日程に参加できる人 費2,300円(教材費) 定20人(先着順) 持筆記用具、電卓、上履き	場 6月30日(金)から7月21日(金)15:00までに電子メールで ✉t-kwkm@m.nagano-c.ed.jp 場 穂高商業高校 Tel82-2162

市民大学講座

安曇野市・信州大学連携事業



市民を対象とした生涯学習の場として、信州大学から講師を迎えた市民大学講座を開催します。

■共通事項

場 豊科交流学習センター「きぼう」多目的交流ホール 費無料 定各回70人(抽選。受講者には案内ハガキを送付)

場 7月21日(金)までに郵便番号・住所・氏名・電話番号・希望講座を生涯学習課へ。市HP から、ながの電子申請サービスもご利用いただけます。

場 電話 399-8281(住所不要) 生涯学習課 宛て

Tel71-2466 Fax71-2338

✉shogaigakushu@city.azumino.nagano.jp

第2回 「質量をつくる」Higgs粒子発見!

8月24日(木)19:00~20:30
講師 竹下徹さん(理学部特任教授)



第4回 印象派期における音楽と絵画 —ドビュッシーとモネ—

9月7日(木)19:00~20:30
講師 中島卓郎さん(教育学部教授)



第1回 ウクライナ危機の深層:冷戦後の戦争と平和

8月17日(木)19:00~20:30
講師 甘信吾さん(経法学部教授)



第3回 食と健康 一腹7分目は医者いらず

8月31日(木)19:00~20:30
講師 田中直樹さん(医学部教授)



第5回 カイコ研究の現在と未来

9月14日(木)19:00~20:30
講師 白井孝治さん(繊維学部准教授)



夏休み子ども体験ラボ



■共通事項

場 6月26日(月)から30日(金)に市HPまたは電話で

場 問子ども家庭支援課 Tel71-2078

■ミニたみをつくろう!

8月1日(火) 9:30~11:30
場 豊科交流学習センター「きぼう」学習室1
講師 堀内秀一郎さん(豊職人) 対小学生 費500円 定15人(抽選)

■爆発型ペットボトルロケットを打ち上げよう!

8月3日(木) 9:00~12:00 場 堀金公民館講堂、堀金中央公園
講師 門崎克典さん(元高等学校理科教諭) 対小学3~6年生 費無料
定15人(抽選) 他実験時に大きな爆発音が出ます

■飾れる書道作品をつくろう!

8月17日(木) 10:00~11:30
場 豊科交流学習センター「きぼう」学習室2・3
講師 山縣美智代さん(書道教室主宰)
対習字をやったことのある小学生 費無料 定10人(抽選)



第4回

小説『安曇野』の登場人物を知ろう!



そうま あいぞう 相馬 愛蔵

故郷の穂高から上京し、妻の良とパン屋「中村屋」を創業。先を見据えた経営手腕で中村屋を大きく繁盛させた。一流商人としてだけでなく、社会的な弱者たちを支えたことでも有名です。

1901年に上京した愛蔵と良は、1日のうち2食をパン食にする生活を3カ月間続け、パン食は便利で将来性

邂逅と対話の安曇野紀行 「相馬家の洋館」

相馬の洋館で、幾晩も議論と協議をくりかえした末の結論はこうであった。喜源治は転任を拒否すること。禁酒会が中心になって、村びとに呼びかけ、官学に対抗して私学をつくること。

(小説『安曇野』第一部 その一より引用)

穂高白金(当時の白金村)にある相馬家の洋館は、第一部の舞台として何度か登場します。序盤では、愛蔵の仲間たちが洋館に集い、私塾「研成義塾」の創設に向けて議論を重ねた様子が描かれています。その洋館は現在も残っており、当時の面影を感じることができます。



がある判断してパン屋を開業。愛蔵は支店を出す際、殺風景だったが「将来の発展の上から市内電車の終点以外に適地はない」と、新宿に目を付けました。その考えは的中し、1909年には新宿の支店を本店にするほどの好調ぶりでした。

関東大震災が起きた際はパンなどを夜通しで作り、原価に近い価格で被災者に販売。中村屋の信用が大きく高まるきっかけとなりました。愛蔵は自著「商人として」の中で、「金を儲けようとして商売をしなかった」と振り返っています。

1954年に83歳で亡くなりますが、その経営手腕で発展させた中村屋は、現在も多くの人が愛され続けています。